

令和5年芽室町議会定例会9月定例会議一般質問

令和5年9月21日再開

質問議員 氏名	質問項目	質問の内容・要旨	答弁を 求める者
木村 淳彦 (45分間)	1 公共事業による地域内経済循環と経済強化について	<p>国内における経済状況は、資材、電気、燃料、人件費等あらゆるものが高騰し、本町においても基幹産業である農業をはじめ、商工業への影響は大きく厳しい状況が続いています。このような状況下において、公共事業の意義は、資源の効率的配分という政策の達成のみならず、地元企業や事業所等の安定経営、景気調整、雇用の維持・確保という相関的な効果や成果が重要であり、自治体独自の新たな発想で、公共事業から派生する地域内経済循環による経済強化を図るべきと考え、以下3点について、町長の見解を伺います。</p> <p>① 町が発注する公共事業において、今般の流動的な物価高騰の影響を加味した資材調達や人件費に係る設計の基本的な考え方について、町長の見解を伺います。</p> <p>② 不安定な経済情勢による町内の土木・建築業者の現状と課題について、町長の見解を伺います。</p> <p>③ 公共事業における町内企業が町民生活に及ぼす影響について、町長の見解を伺います。</p>	町長
	2 機構改革の成果と課題について	<p>令和3年度にスタートした機構改革は今年で3年目を迎え、また、来年夏には町長の任期が後半に入ることから、政策実現に向けた機構改革の成果と課題について、以下3点について町長の見解を伺います。</p> <p>① 当初掲げた重要政策の実現に向けた機構改革の主な成果と課題について、町長の見解を伺います。</p> <p>② 課題解決に向けた組織・機構の新たな機能と展望について、町長の見解を伺います。</p> <p>③ 新たな機構が町民の認知度、利便性の向上、使いやすい・相談しやすいものとなっているか、町長の見解を伺います。</p>	町長
菊池 秀明 (30分間)	1 「LGBT理解増進法」の取組みについて	<p>全国的に、性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解が必ずしも十分でない現状に鑑み、施策推進の基本理念、国及び地方公共団体の役割、基本計画の策定等必要事項を定め、多様性に寛容な社会の実現に資することを目的として、本年6月にLGBT理解増進法が施行されました。</p> <p>この法は、児童も対象のため、学校設置者に対しても施策への協力に努めることとされていることから、各自治体では、きめ細かく丁寧に運用していくべきであり、さらに、LGBTを一括りにせず、当事者個々の異なる多様性を尊重し、かつ、様々な立場からの指摘も踏まえて、運用することが肝要だと考えます。</p> <p>しかしながら、この法案が成立する経過を振り返ると、諸課題に係る多くの論点について慎重な検討が欠けており、今後、法の趣旨から逸脱した過剰な主張や要求が広まり、社会の混乱を引き起こす可能性も懸念されます。</p> <p>これらのことから、本町における関連施策の策定と実施にあたり、事前の課題整理と町独自の取組方針の見</p>	町長

質問議員 氏名	質問項目	質問の内容・要旨	答弁を 求める者
(菊池秀明)		<p>極めが必要不可欠と考えることから、次の2点について、町長の見解を伺います。</p> <p>① 本町におけるLGBT法の運用に際し、主たる課題の認識と今年度中の取組概要について、見解を伺います。</p> <p>② 本町におけるLGBT法の運用に際し、町の独自性や特徴の発揮について、見解を伺います。</p>	(町長)
中田智恵子 (45分間)	<p>1 アピアランスケアの支援について</p> <p>2 带状疱疹の予防について</p>	<p>アピアランスケアとは医学的・整容的・心理社会的支援を用いて、外見の変化を補完し、外見の変化に起因するがん患者の苦痛を軽減するケアと定義されています。外見変化による日常生活の影響は、外出の機会が減り、人と会うのがおっくうになる、仕事や学校を辞めたり休んだなど、社会生活に大きく影響を及ぼしています。</p> <p>本年3月に閣議決定された「第4期がん対策推進基本計画」においては、「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す。」として、がんとの共生が目標とされており、本町における「第5期芽室町健康づくり計画」の策定に向けても、この趣旨が反映されるものと期待を寄せているところです。</p> <p>これらのことから、自分らしく生活の質を保ちながら過ごすためのアピアランスケアの重要性はますます高まると共に、がん患者の心理的・経済的負担の緩和に対する自治体独自の取り組みが重要と考え、次の2点について町長の見解を伺います。</p> <p>① アピアランスケアに関するがん患者の実情についての相談実績、現状認識と課題について町長の見解を伺います。</p> <p>② アピアランスケアにおける助成制度創設の見通しについて、町長の見解を伺います。</p> <p>高齢化の進展に伴い、今後、増加が見込まれる病気として带状疱疹があります。近年、水痘ワクチンが高齢者の带状疱疹の予防に使用することが承認され、発症予防には、ワクチンが有効とされていますが、費用が高額になることから接種を諦める高齢者も少なくありません。带状疱疹は、発症すると神経を損傷し、带状疱疹後神経痛と呼ばれる合併症に加えて、角膜炎、顔面神経麻痺、難聴などを引き起こし、目や耳に障害が残ることがあるとも言われていますが、ワクチン接種について認知度が低いのが現状です。</p> <p>第5期芽室町総合計画では、「いつまでも健康で安心して暮らせる保健医療環境づくり」を政策として掲げていることから、一定年齢以上の町民に対するワクチンの有効性等を確認し、带状疱疹ワクチンの助成制度の創設が必要と考え、次の2点について町長の見解を伺います。</p> <p>① ワクチン効果の認識と助成制度創設の見通しについて、町長の見解を伺います。</p> <p>② 今後の対策に向けた課題と推進策について、町長の見解を伺います。</p>	<p>町長</p> <p>町長</p>

令和5年芽室町議会定例会9月定例会議一般質問

令和5年9月22日再開

質問議員 氏名	質問項目	質問の内容・要旨	答弁を 求める者
中村和宏 (45分間)	1 少子高齢化 社会に対応し た住民自治の 実現について	<p>町では、平成19年3月に制定した「まちの憲法」である「芽室町自治基本条例」のもと町民による住民自治に取り組んでいます。</p> <p>第5期芽室町総合計画後期実施計画の施策である「住民自治の実現と地域の活力の維持」にも記述がありますが、少子高齢化や人口減少など、社会情勢の変化により多くの課題に直面している現状と認識しています。</p> <p>ここ数年、出生数は100人前後で推移し高齢化率も30%を超えている現状です。少子高齢化という社会情勢の変化をしっかりと見据えた住民自治の実現、町民参加の取り組みが必要と考えます。以下2点について、町長の見解を伺います。</p> <p>① まちづくりに大きな役割を担っている機能として、町内会があります。少子高齢化という現状での町内会活動の課題及び今後の活動支援に対する町の展望について、町長の見解を伺います。</p> <p>② 重要な住民参加の手法としての「公共サービスパートナーシップ制度」においても、少子高齢化などによる影響が大きいものと考えます。当該制度の主な成果、現状と課題、今後の展望について、町長の見解を伺います。</p>	町長
堀切忠 (60分間)	1 高齢者の難 聴に係る支援 について 2 町内会活動 への支援につ いて	<p>加齢性難聴は60代後半で3人に1人、75歳以上になると7割以上との研究報告があります。難聴になると、家族の中でも会話が減り、人が集まる場へ出ずに引きこもりがちになり、さらに認知症になるリスクも高まると言われています。この課題の主な解決策に補聴器の活用がありますが、高額のため購入に苦慮する声を聞くことから、補聴器購入費補助を含め、高齢者への難聴対策に係る支援について、町長の見解を伺います。</p> <p>町内会等への加入率低下や役員のなり手不足等の課題は、全国的な傾向として顕著であり、本町もその例外ではありません。</p> <p>本町は令和元年6月に、市街地町内会連合会との連携協定を締結し「健康づくり・福祉増進」等8項目を両輪となって推進していますが、次の2点について町長の見解を伺います。</p> <p>① 町内会の加入増、役員のなり手不足に対する町の支援に係るこれまでの取組実績、現状、課題、今後の取組について、町長の見解を伺います。</p> <p>② 単位町内会が支出する各種団体等に対する負担金は、長年続くしくみであり、新たな自治活動の支援に向けては、行政も検討すべき重要な事項であると考えことから、この経過の認識、現状、課題、今後の町の関与と方策について、町長の見解を伺います。</p>	町長

質問議員 氏名	質問項目	質問の内容・要旨	答弁を 求める者
渡辺洋一郎 (60分間)	1 熱中症対策 について	<p>総務省消防庁によると、今年5月から8月20日までに北海道で熱中症で病院搬送された人は約2,000人で、昨年比2.1倍、さらに8月21日から27日までの1週間では935人にのぼり、昨年比25倍、全国と比較しても増加率の高さが目立っています。</p> <p>北海道など、暑さに慣れていない地域では、他の地域よりもリスクが高いとも言われており、熱中症への予防、対策が重要と考えることから以下2点について伺います。</p> <p>① 町民に向けた熱中症への予防・対策に係る現状と課題、今後の取組みについて、町長の見解を伺います。</p> <p>② 各家庭に冷房機器のない町民などに対し、冷房を備えた公共施設の利用を促したり、新たに公共施設に冷房設置を整備するなど、今後の新たな対応に向けた現状と課題について、町長の見解を伺います。</p>	町長
	2 発達支援の 取組みについ て	<p>本町における発達支援システムは、保育・教育・保健・医療などの横の連携と、個別ケースごとの就学前から就労に至るまでの一貫性と継続性のある縦の連携による取組みがされてきているところであり、現状の体制と今後の取組みの展望について、以下3点について伺います。</p> <p>① 早期発見・療育の体制について、これまでの取組みと今後の課題解決に向けた展望について伺います。</p> <p>② 保護者との発達についての情報共有の現状と課題について伺います。</p> <p>③ 本町では4か月児、10か月児、1歳9か月児、3歳6か月児健診が行われていますが、就学前における健診の必要性についての考え方を伺います。</p>	町長
	3 株式会社モン ベルとの包 括連携協定に ついて	<p>本町では本年6月に、株式会社モンベルとアウトドアを基軸とした地域の活性化と町民生活の質の向上を目的とした「包括連携協定」を締結しました。協定項目は7項目にわたりますが、その具体的な取組みについて以下2点について伺います。</p> <p>① 防災関連について、具体的な協議、調整を進めるとあるが、具体的な今後の取組みと展望について伺います。</p> <p>② 子育て分野においては連携協定を結んでいる他自治体での取組み例もありますが、今後本町においてどのように事業展開を考えているのか展望を伺います。</p>	町長

質問議員 氏名	質問項目	質問の内容・要旨	答弁を 求める者
正村紀美子 (90分間)	1 公有財産(土地・建物)の活用と今後の展望について	<p>町は、「芽室町公共施設等総合管理計画」及び「芽室町町有財産利活用等基本方針」を定め、公共施設などの総合的かつ計画的な管理を推進しているが、下記事項については、第5期芽室町総合計画の政策実現に大きな影響を及ぼす公有財産(土地・建物)であることから、今後の展望について、町の見解を伺う。</p> <p>① 新嵐山スカイパーク用地の使用許可について、令和3年9月の一般質問での答弁は、許可期限は令和4年度までとし、貸付方法や新たな賃借料の設定及び長期的な貸付けについては、改めて検討するとのことだった。その後の検討経過および今後の対応について、町の見解を伺う。</p> <p>② 町は、令和2年度から雇用促進住宅を供用開始し、町内企業に対する支援策を講じている。周知活動等による認知度の向上により、利用は増加しているものの、建物の老朽化は依然、大きな課題である。事業実施後の課題や成果を踏まえて、今後、雇用促進住宅をどのように整備・活用していこうとするのか、町の見解を伺う。</p> <p>③ 町は、令和3年度に旧国立農業試験場芽室宿舎跡地西側を「障がい者福祉活躍ゾーン」と位置付けた。令和4年度から放課後等デイサービス事業により用地が一部活用されているが、当初計画に示された具体的な活用はされていない。現状と課題、今後の事業構想等土地利用のあり方について、町の見解を伺う。</p>	町長